



新正会 戸村勝敏 議員

Iターン農業新規就農者について

問 旧山武町睦岡地区では、有機農業が盛んに展開され、平成15年11月に有機農業推進特区を取得し、その知名度の高さからIターン就農が盛んです。私が調べたところ、現在14家族、耕作面積は18haとなっております。Iターン就農をされている方は、平均年齢も若いため、結婚・子育て中の家庭も多数見受けられます。

答 人口減少が大きな問題となっている山武市にとって、永住が期待できるような人材を、進んで迎え入れるべきだと思いますが、市長の考えを伺います。

答 市長 市内には、農家の方々が大切に受け継いできた多くの農地があります。近年では高齢化や後継者不足といった悩みを抱える農家の方が

増加している状況です。その中で、農地をどのように維持・管理していくかも、大きな問題となっております。これらの農地を、農業を志す若い方々に有効に活用していただき、その上で、市への移住・定住、そして人口減少対策に結び付けられればと考えています。



問 市における、昨年度の新規就農者およびその内訳について伺います。

答 経済環境部長 平成30年度の新規就農者は、15人です。内訳は、いわゆる親元就農者が5人、雇用の就農者が7人、新規参入者が3人です。

問 この地域の広さとしては、かなり少ない人数だと思います。新規参入者を増加させるための方策として、Iターン就農が有効と考えますが、これにつながる支援策について伺います。

答 経済環境部長 平成24年度から始まった、農業次世代人材投資事業があります。

問 農業次世代人材投資事業を活用したIターン就農者数について、事業開始以降の状況を伺います。

答 経済環境部長 事業を活用した市内移住者は18人です。うち、夫婦就農者が3組、6人です。

内訳としては、平成24年度が4人、うち夫婦が1組。平成25年度が4人、うち夫婦が1組。平成26年度が2人。平成27年度が2人。平成28年度が3人、うち夫婦が1組。平成29年度が3人です。

問 Iターン農業の新規就農者への、農地バンクおよび空き家バンクを活用した支援について伺います。

答 経済環境部長 市内に定住してもらうためにも、農地情報と併せ、住まいの情報等も周知していただくことが重要だと考えています。平成31年度から開設した、市の空き家バンク制度を活用し、住宅の情報、農作業に適している施設や作業場、倉庫等についての情報を周知するなど、農地も住まいも市に確保し、多くの方に移住定住先として山武市を選んでもらえるよう、関係各課で連携を図り、今後進めていきたいと思ひます。

問 空き家バンクに、農家住宅等

の登録はあるか伺います。

答 都市整備課長 現在までの登録はありません。

問 空き家バンクを新規就農者が利用した場合、支援があるか伺います。

答 都市整備課長 現在はありませんが、空き家バンクに特化したリフトーム制度等について検討してまいります。

問 Iターン就農の前段階として、農業インターンシップ制度があります。これは、主に大学生等が一週間から三週間ほど、農家で研修するものですが、市でこれを行うには宿泊できる施設が必要となります。空き家を1軒借り上げて、対応することはできないか伺います。

答 経済環境部長 就農を目指す若者に、農家での研修を受けていただくことは、非常に重要なことであると思ひます。しかし、一軒家を市で借り上げる場合、課題が多いと考えます。今後、これらの課題解決等、環境を整え、Iターン就農も含め、新規就農者の受け入れを、関係各課と連携を図り進めていきたいと思ひます。

